令和７年度【2025年度】

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

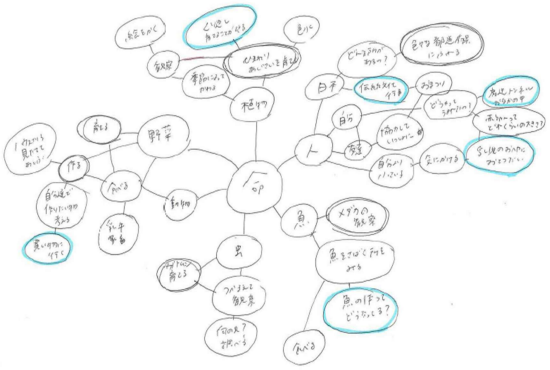
施設名	みらいく西大泉園
施設所在地	東京都練馬区西大泉１丁目２９－４
事業者名	株式会社第一コーポレーション

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

包括的性教育・命

「自分の命も周りの人の命も大切にする気持ち」



＜テーマの設定理由＞

本園では、「木育」「食育」への一体的な取り組みを大切にしており、また、子ども同士の主体的対話的な活動の生活･教育的枠組みとして「ハイスコープカリキュラム」を実施している。
ハイスコープカリキュラムでは主体的対話的に活動に取り組み、協働し課題解決できる力につながる多様性の理解や尊重しあう気持ちの基礎が培われることを重視している。
そのハイスコープカリキュラムの生活･教育的枠組みの下で、子ども達が日々の生活を通して自身の健康や身体を守る意識を育む過程にあわせて「木育」の視点：身近な生き物や自然に親しみながら生命に興味関心をもち「食育」の視点：命への理解と感謝の気持ちを深めていくことを一体的につなげながら活動展開していくことで、主体的･対話的･深い学びとしての包括的性教育が実現できることに期待し、本テーマを設定した。

２．活動スケジュール

6～8月
「木育活動」…身近な命に触れる活動
「性（生）教育」…命について知る、考える活動
9～3月
「食育活動」…たった1つしかない命をいただくことを実感し、感謝の気持ちを育む活動
「性教育」…命の芽生えから誕生までの過程を知る

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

環境の設定
活動がつながっていくよう、感じたことや考えたことの表現・振り返りを丁寧に行えるよう①人：子ども同士のグループとファシリテーター役の保育士②物：表現できる手段・方法（素材や道具）③場：振り返り・共有を行う時間の確保、足場がけとなる環境
「木育活動」
・身近な植物や生きものを観察できる虫かご、ルーペなどの道具→②
・調べる、興味関心を広げる、次へとつなげるための図鑑→②
・野菜や花などの植物を継続的に栽培することで身近な自然に触れあえる畑、園庭、公園→③
「包括的性（生）教育」
・多様性、人権について理解し考えるきっかけとなるテーマの絵本　世界の文化に触れる物語、他者の気持ちを考えるきっかけとなるテーマの絵本→②
・胎児人形→②
・看護師や地域関係者による保健・防災・安全防犯等の指導（プライベートゾーン、震災やお盆、終戦記念日、不審者侵入訓練など）→③
「食育」
・子どもが主体的・対話的に取り組み、命への感謝の気持ちを育む食育活動の実施方法、手順・展開方法について外部講師による講習受講（保育士）→①
「ハイスコープカリキュラム」
・共通の興味関心に基づき、子どもの気づきや発見、考えを表現できる対話と協働的な振り返り・作業の時間の継続的確保→③
・感じたこと考えたことを様々に表現して伝える、発表するための表現素材→②

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

下記活動を子どもの興味関心に基づいた小グループにわかれ、①テーマの設定②調べてみる、仮説をたててやってみる③気づきや発見の共有④発表し伝える⑤次のテーマや活動につなげる、という流れで展開した。
・「木育活動」…身近な命に触れる活動内容
（1）花や野菜の栽培…ジャガイモ、米、ヒマワリの栽培（2）生き物の観察、飼育…メダカカブト虫など身近な生き物の観察と飼育
・「性（生）教育」…命について知る、考える活動
（1）自分の身体を守ることを知る…着脱→プライベートゾーン＝命がつながっていくための大切な器官を守ることを学ぶ（保健指導）（2)合意・同意…自分の気持ちと自分とは異なる友達の気持ちについて考え、話し合う（3）命のつながり…お盆、終戦記念日について調べてみる、感じたことを話し合うことで命のつながりを考える
・「食育活動」…たった１つしかない命をいただくことを実感し、感謝の気持ちを育む活動
（1）魚の解体（２）牧場（食肉用として出荷される仔牛の見学）（３）野菜の収穫・クッキング活動
・「性教育」…命の芽生えから誕生までの過程を知る
（１）身近な生き物の生態を調べる、発表しあう（２）自分の命の芽生えから誕生までの過程を知り、保護者に聞いてみる（３）胎児人形を抱いてみる、産道トンネルを通ってみることで自分の誕生を体験し、命の大切さ、尊さを感じる

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

保育者が一つ一つの遊びや活動を丁寧に大切に取り扱うことで、子ども達も真剣な表情で集中して耳を傾けていた。様々な遊びや活動を通して感じたことや考えたことを言葉や絵など様々な形で表現・伝えあうことで感情や理解が深まり、散歩や食事など日常のふとした場面で子ども同士で互いの気持ちを大切にやり取りする様子も増えていった。卒園式では産道トンネルを通り、保護者と出会う場面を再現したことで親子で涙し、一人ひとりが大切な存在であることの実感とともに、周りの友達を大切にしたい気持ちをもつことができていた。



5．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

主体的・協働的な学びを継続的・発展的に展開していくために、必要なものの内容・数・種類を揃えておくなど見通しをもった環境設定が行えるよう、子どもの発信する何気ない言葉を日常のなかでキャッチしていけるよう心がけた。 子ども一人ひとりが考えたことを言葉などでしっかり表現できて、それを互いに耳を傾けあい理解できるような時間の設定を行って保育士が子ども主導のやり取りを支えていくこと、また、子ども同士の相互作用がより効果的なものとなるようにグループ分けの工夫もした。 一つのテーマを軸としながら、子ども同士で調べる・表現し合う・対話することを意識した活動の連続性のある活動の展開ができた。友達と一緒に取り組み、互いのやり取りによりすすめていく一連の活動によって、個々で調べたり知っていく活動よりも一層、自分が生まれた過程、大切にされていることを感じて子ども自身の心が動いていくことを感じることができた。